

1. 実況上の着目点

- ① 前線が日本の東～種子島・屋久島付近～華南方面へのびている。また、東シナ海の前線上に低気圧があって、北東進。
- ② ①の前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島～日本の南で雷を検知、南西諸島の西海上では1時間およそ50mmの雨量を解析。また、前線や低気圧の近傍では気圧の傾きが大きく、西～東日本では、やや強い風や強い風が吹き、波が高くしけとなっている所がある。
- ③ 北日本では、下層寒気移流の影響で、3時間で5cm前後の降雪を観測。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は4日夜には四国沖に進む。その後、5日朝までに前線上に新たな低気圧が発生し、四国沖の低気圧と世代交代しながら、低気圧は東日本太平洋側を東北東進し、5日夜には三陸沖に進む。6日は、低気圧が発達しながら日本の東を北東に進み、日本付近は西高東低の気圧配置となる。
- ② 850hPa -3℃以下の寒気は4日は関東甲信地方に停滞、5日は津軽海峡付近に北上する。また、6日は西高東低の気圧配置となり、850hPa -6℃の下層寒気が西日本まで南下する。2項①の低気圧や下層寒気の影響で、北～東日本では6日にかけて大雪となる所がある。大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪に注意。
- ③ 5日にかけて2項①の前線や低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、6日は下層寒気の影響により、大気の状態が非常に不安定となる所がある。南西諸島や西日本太平洋側では5日にかけて、北～東日本では6日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、南西諸島では、5日にかけて雷を伴った激しい雨の降る所がある。
- ④ 2項①の低気圧や前線近傍では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くしける所がある。全国的に6日にかけて、強風や風雪、高波に注意。
- ⑤ 降水による雪解けや大雪の影響で、西～北日本の多雪地では6日にかけて、なだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】**
- ① 雨量 (18時からの24時間) : 多い所(100mm以上)はない。
 - ② 降雪量 (18時からの24時間) : 東北40、関東甲信30、東海20cm。
 - ③ 波浪 (明日まで) : 九州北部5、その他広い範囲で3～4m。
 - ④ 高潮 (明日まで) : 低気圧や前線の影響で、奄美地方～西日本では5日にかけて、副振動発生の可能性がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。